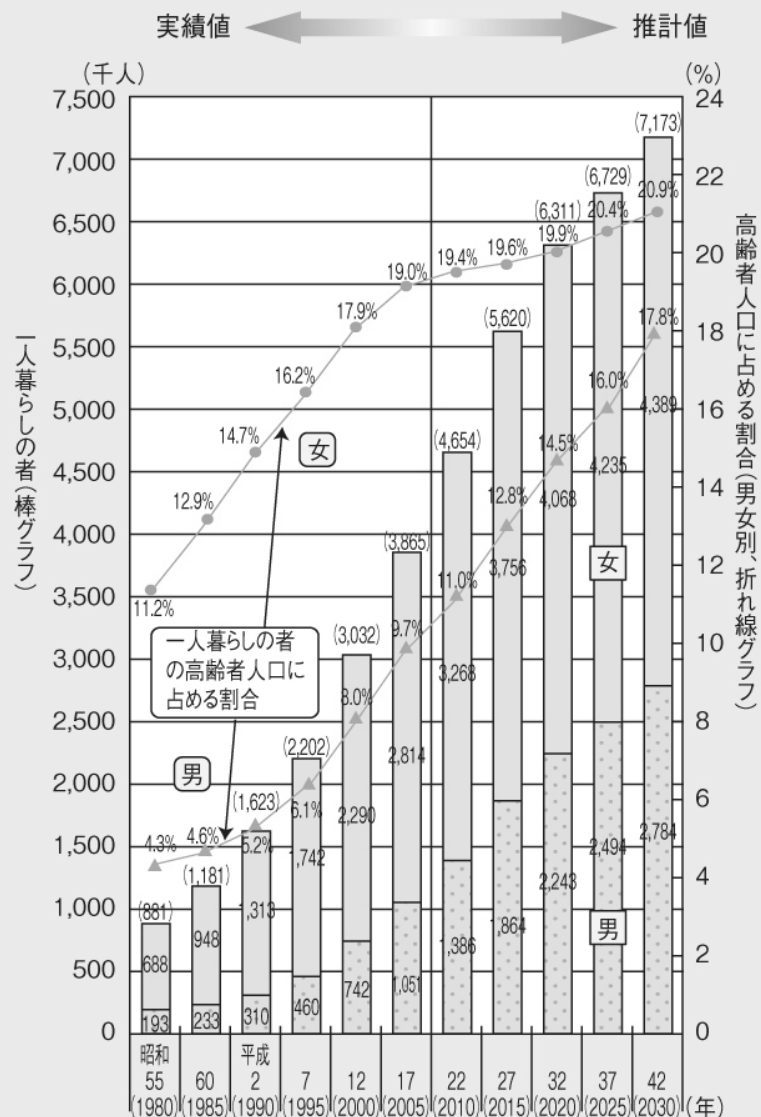


(図1-2-1-10)は1人暮らしの高齢者の動向ということでございますけれども、ピンクが女性、男性が水色ですが、1人暮らしの高齢の方は男女ともに非常に増えています。特に女性が大きく増えています。

男性もその増え方が顕著であるということで、私も市役所に出向していたときに、地域の男性とお話することもあったんですけど、「介護が必要になったら奥さんに面倒見てもらうからいいや」というふうにおっしゃっている男性の方多かったです。男性の1人暮らしの方増えていきますので、必ずしも奥様がずっと死ぬまでそばにいてくださるようなものではないということ、ちょっとお心に留めていただければというふうに思います。

図1-2-1-10 一人暮らしの高齢者の動向



資料：平成17年までは総務省「国勢調査」、平成22年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(平成20(2008)年3月推計)」、「日本の将来推計人口(平成18(2006)年12月推計)」

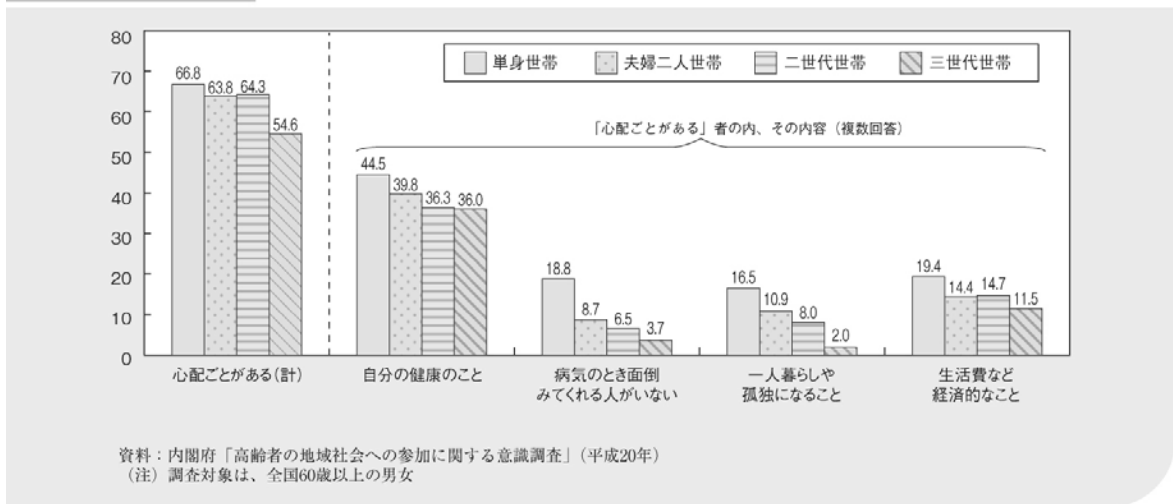
(注1)「一人暮らし」とは、上記の調査・推計における「単独世帯」のことを指す。

(注2)棒グラフ上の()内は65歳以上の一人暮らし高齢者の男女計

1人暮らしのご高齢の方で、ほかの世帯と比べて「心配ごととか悩みごとがあるか」というふうなことを聞いたものが(図1-2-1-11)になります。これは単身世帯、世帯別に心配ごとや悩みごとありますかと聞いたときに、予想されることなのですが、やはり単身世帯の方のほうが「心配ごとがあるね」とおっしゃる方の割合が高く、特に健康のこととか、それから生活費など、経済的なこととが「心配ごと」というふうに思っている方がほ

かの世帯より、単身世帯の方のほうが多いというふうな状況でございます。

図1-2-1-11 同居形態別にみた心配ごとや悩みごと



高齢の方の経済状況なのですけれども、次のページでございます（表1-2-2-2）。

表1-2-2-2 高齢者世帯の所得

区分	平均所得金額		
	一世帯当たり		世帯人員一人当たり（平均世帯人員）
高齢者世帯	総所得	298.9万円	192.4万円(1.55人)
	稼働所得	50.5万円 (16.9%)	
	公的年金・恩給	211.6万円 (70.8%)	
	財産所得	17.6万円 (5.9%)	
	年金以外の社会保障給付金	2.5万円 (0.8%)	
	仕送り・その他の所得	16.6万円 (5.5%)	
全世帯	総所得	556.2万円	207.1万円(2.69人)

資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成20年）（同調査における平成19年1年間の所得）
 (注) 高齢者世帯とは、65歳以上の者のみで構成するか、又はこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯をいう。

高齢者世帯の世帯当たりの年間所得なのですけれども。これは表の左側で298.9万円。1人当たりは192.4万円。全世帯の一人当たりの年間所得は207.1万円です。

円グラフ（図1-2-2-3）をご覧くださいますと、高齢者世帯で公的年金とか、それから恩給で所得が100%、つまり所得は年金と恩給だけというふうな世帯が6割というふうな状況にあるということが、この円グラフでおわかりいただけるかと思えます。